



# こみゅーと

「コミュニティユニオン東京」ニュース N0178号 2024年12月25日  
 170-0005 東京都豊島区南大塚2-33-10 東京労働会館3F  
 TEL 03-3946-9277 FAX 03-5395-3242 E-mail staff@cutokyo.jp  
<http://www.cutokyo.jp> 「こみゅーと」ラテン語「流れを変える」  
 「こみゅーと」バックナンバーをホームページで読めます

## 都内10か所で年末宣伝 新年が笑顔で迎えられて、安心して働けるように

### 渋谷はサンタが好評



12月8日渋谷駅での恒例のサンタ宣伝

### 秋の拡大月間 目標まであと1人! 練馬支部

組織拡大月間も、わずかな日数を残すだけとなりました。この間、労働相談から組合に加入



された方が2名あり、通算3名の拡大です。更に拡大をと、12月4日、西武新宿線江古田駅で、宣伝行動を行いました。

近隣大学の乗り降り駅ということで、この駅を選びましたが、残念な事に、時間が合わなかったか、大勢の学生さんには遭遇出来ませんでした。それでも、パンフレットを配る呼びかけに答えて、若者2人が「有難うございま〜す」と声をかけて受け取ってくれました。

パンフレットの受け取りも良く、本部からも応援に駆けつけて頂き、力になりました。

12月19日、1名拡大しました。(伊藤悦子)



## 《支部総会開かれる》

**第15回定期総会**  
組合の活動が  
よくわかるように改善  
**江戸川支部**



11月20日（水）江戸川グリーンパレスにて江戸川支部は第15回総会を開きました。出席は20名で討論は、宣伝の改善・SNSの活用、組合の活動が良く分かるようにニュース紙面の改善などが出され、議案は全員の賛成で可決されました。

役員は以下の通りです。

委員長 高梨 俊一  
副委員長 飛鳥 文代  
書記長 新木 輝代  
執行委員 小林 隆明、村越 拓也、  
加藤 隆哉、三枝 繁、牧 里絵、  
影山 政行、竹澤 里枝  
会計監査 山崎 哲

## 《活動報告総会》

**樋口一葉さんを忍びながらの  
本郷・菊坂散歩と交流会**  
**文京支部**

CU東京文京支部晩秋のレクリエーションとして、11月30日（土）14時から、「樋口一葉さんを忍びながらの本郷・菊坂散歩と交流会」を行いました。絶好のお散歩日和の、おだやかな陽射しの中、本郷三丁目駅に、幅広い「暇人」が集まりました。

本郷・菊坂には、文豪や著名人が数多く宿や旅館に長期滞在をして、サロンのような場

所を利用していました。今も当時の名残のままに、懐かしい木造の建物（3階建）や井戸や急で狭い石の階段が昔を忍ばせています。坪内逍遙、宮沢賢治、夏目漱石、芥川龍之介、石川啄木、若山牧水、竹久夢二など心躍らせた本郷菊坂です。明暦の大火（振袖火事）の火元の本妙寺もありました。メインの樋口一葉（夏子）さんが生活苦の際に実際に頼った、「伊勢屋」という質店の中を見学できた（11月30日15時までが見学の可能期間だった）ので、室内に入って、当時の生活の風情や資料を見学しました。蔵の中の様子を見て、着るものにも困った中で、24歳6か月という短い期間で、数多くの奇跡の作品群を執筆発表して、女流作家として評価、愛されて、5000円札の表紙（現在は津田梅子）にもなって、多くの国民に親しまれる樋口一葉を忍ぶことができました。

菊坂通りのところどころに、説明の表示が掲げられていて、参加者は、うなずきながら記憶にとどめ散策しました。戦前の「太陽のない街」の共同印刷の下請けなどの労働者のハモニカ長屋の名残も見てきました。樋口一葉終焉の跡地を最後に菊坂散歩を終えました。

終了後に、文京区労協事務所で、お疲れ様の交流会を開きました。前日から作ってある「具だくさんのおでん」、前日に届いた宮城県石巻市の3年物牡蠣約100個を生ガキ、ワイン蒸し、日本酒蒸しなどにして堪能しました。ユニオンちよだの仲間も参加して、22席の狭い空間に、27名が集まり、「立ち呑み」を含む飲食になりました。4歳のわれらがアイドルの「よっちゃん」による、じゃんけん大会、よっちゃん指揮による童謡の合唱などで大いに盛り上がりました。大吟醸酒やバーボン15





年物などもカラになりました。感動して涙する参加者もいました。交流会だけでも、4時間にわたる会になりました。

## 昭和記念公園を歩き、 梅の湯温泉で汗を流す CU品川



12月8日の日曜日、立川の昭和記念公園に9時半に集合し、参加はキャンセルもあり8名でしたが、CU東京本部の佐藤委員長にも参加いただきました。最初は寒く、歩いている内に暖かくなり、空も快晴になりました。紅葉も残っており、山茶花の赤い花が見事にあちこち咲いており、日本庭園の盆栽苑では何百万円もする見事な「五葉松」などが展示され、皆価値があるのかわからずに、すごい、すごいとうなっていました。その後、原っぱ広場に行き、小中学生がクロスカントリー大会をやっているその横で、やることないので全員に当たる素晴らしい賞品の抽選会を行い、1等の「しめ飾り」は池野委員長が当たりました。

公園を出て電車で河辺駅に向かい、駅前ビルの9階にある「梅の湯」温泉に12時半前に着き、8つの浴槽を楽しみ、疲れを取ったあと食事処で昼食を食べながら交流しました。佐藤委員長から、「組織拡大月間もあと1カ月切った、組合員を増やして」と訴えがあり、自己紹介を行いながら楽しく交流しました。2時半に解散しましたが、Sさんは「もう一度温泉に入る」と言って残り、皆は3時前の電車に乗り帰路に着きました。なんか執行委員の慰安会みたいなレクでした。

## 「CU東京 15年」

### 第1回 中村元（こうとう）

★CUは今年結成15年を迎えた。こんにち、支部（三多摩地本含む）は14を数え、組合員も1800人と単一のローカルユニオンとしては全労連傘下では一番大きい。

★しかし、結成前夜は「産みの苦しみ」というか、なかなか想定していたようにはいかなかった。結成に遡ること5年前。東京地評は2004年5月に「組織化対策検討委員会」の報告でTCU（東京コミュニティユニオン）〈今の「CU東京」と逆〉の組織化を提言して、結成に向けた議論が開始された。

★しかし、一部には反対論も多かった。「ローカルユニオンなんか作ってもすぐにやめてしまう」…とか、「労働三権も行使できないのは組合ではない」とか。また、自分たちの陣地が崩されるという声もあった。

★4年以上の議論を経てなんとか結成を迎えたCU。結成大会時はわずか57人。「小さく産んで大きく育てる」…政府与党が労働法を改悪するときのフレーズのようだが、CUはまさに苦難の出発だった。それでも地域に支部が次第に結成され、増える労働相談にこたえて団体交渉や労働審判・裁判などにとりくむれっきとした労働組合になった。

★昨年、関東近県のローカルユニオンの仲間が集う「学習交流会」が開催された。各県の苦悩、挑戦的なたりくみの経験が語られた。労働事件が解決すると脱退する人がいるし、それを全部残すのは無理だ。しかし「駆け込み寺」から「居場所」へ。せつかく労働組合の門をたたいた人をどう成長させるか、リーマンショックの時のような形とは異なる、現在の労働者のおかれている状況の中で、ローカルユニオンの課題は、新たな発展の段階にきているのではないだろうか。



## 東京地評女性センター 第6回定期大会



11月23日(土・祝)に文京シビックセンター・スカイホールにて「大軍拡より、憲法が生きる社会へ！ジェンダー平等、ハラスメント根絶！仲間を増やし、要求を実現しよう！」をスローガンに、東京地評女性センター第6回定期大会が開催されました。

討論では、CU東京から港支部の岩淵さんが、古川橋病院で看護部長の雇い止め、2月に病院内に分会を立ち上げた。無期転換が発生する4月1日からの雇用の打ち切りが強行され、毎月病院前でスタンディングを続けており、CUや地域の仲間に支えられている。組合が様々な課題に対して運動していることに感銘を受けている。と発言しました。争議団紹介では、AGC 不当解雇などの争議団が訴え、最後に団結がんばろうで閉会しました。

大会終了後は、後楽園駅前で職場の実態やたらき方、女性の要求などに触れつつ、「組合に入って一緒に実現しましょう」と通行人によびかける宣伝行動を30人で実施しました。

常任委員に伊東弘子(CU東京)さんが、再任されました。

## 古川橋病院の口頭弁論に参加して



12月3日(火)10時、東京地方裁判所517法廷で、古川橋病院のCU港支部組合員、岩淵美和子さんの「雇止め解雇」に対する撤回、職場復帰に関する地位保全裁判の口頭弁論がありました。傍

聴席は、支援の仲間で満席になり、控室待機となる方もいました。今回も被告側の弁護士の2人は、ズーム参加でした。(文京 小川富弘)

## ジョビアル解雇撤回社前行動 (12.5)



何の問題もなくまじめに働いてきたのに、ある日突然、電話代行ジュビアル社

から、iさんは解雇を言い渡されました。

社内で一番ベテランだったiさんを仕事をきちんとしなかったと言いがかりをつけ、「給与の返還や損害買収請求するぞ」などと、およそ普通では考えられない異常な会社の対応です。

iさんは心を痛め付けられながら必死でたたかっています。CU渋谷としても全力で応援していく構えで、これから支援していきます。

(伊藤栄江)

「核兵器も戦争もない世界の人間社会を求めて共に頑張りましょう」と、オスロに凜とした声が響く。ノーベル平和賞受賞式での日本被団協・田中代表委員の結びの言葉。全世界の人類に呼びかけられた■「原爆で亡くなった死者に対する償いは、日本政府は全くしていないという事実」も追及した。核保有国の為政者にはどう届いたか、日本政府はどう受け止めたのか■韓国で突然の大統領による非常戒厳が命令された。国会が襲撃され権限が停止される寸前で、国民と野党は阻止した。憲法が守られ、自由と民主主義と主権こそが平和の保証だと、強く感じさせた■非常事態が宣言され、議会を停止して行政府(の長)が立法できる、日本国憲法では禁じられていることを改憲審議に盛り込もうとする勢力がある。その危険さは明白だ■わが組合は憲法を守ることを掲げ、労働現場に自由と民主主義を貫くことを目標として結成された。改めて大きなCU東京めざし「共に頑張りましょう」